



認定 NPO 法人  
全国盲導犬施設連合会

平成 29 年 3 月 17 日

## 【取材のご案内】

より良い盲導犬育成・歩行指導につなげるために  
盲導犬ユーザー554 人に事故・ヒヤリハットの実態を調査

### 「盲導犬ユーザーの 9 割がヒヤリハット経験あり」

昨年 8 月に発生した盲導犬ユーザー地下鉄駅ホーム転落事故を受け、盲導犬育成団体では事故再発防止へ向け様々な検討を重ねてまいりました。事故に際し多くの方から「盲導犬がいれば万全、声をかけてはいけないと思っていた」とのご意見をいただきましたが、人も犬も生き物である以上「絶対に安全」ということはありません。一方で、事故が発生しても大事に至らなければユーザーから報告があがってこないことも多く、盲導犬育成団体でも事故の実態を把握することが難しい状況でもありました。

そこで認定 NPO 法人全国盲導犬施設連合会（理事長：井上幸彦）では、盲導犬歩行時にどのような事故が起こっているのか、また事故に繋がりがかねない危険がどこに潜んでいるかについて実態を把握・検証するため、日本にある 11 の盲導犬育成団体のうち、連合会に加盟する 8 つの盲導犬育成団体と、その他 2 団体と共同で「事故・ヒヤリハット調査」を実施いたしました。（全国の盲導犬実働数 966 頭中 730 頭、76%）盲導犬ユーザーの駅ホーム転落をはじめ実際に経験した事故の有無、さらにヒヤリハット経験も吸い上げた結果、

平均 8 年間の経験として「9 割の人が、ヒヤリハット経験をしている」

「およそ 4 割の人が、軽微な事故・ケガをした経験がある」

という実態があきらかになりました。事故の原因や状況の詳細データを集積、専門家と共に検証、より安全な盲導犬歩行へ向けた基礎資料とし、盲導犬訓練や歩行指導をどのように行っていくべきか、真摯に検討していきます。

調査結果を下記に公開いたしますので、ぜひご覧ください。

#### 【加盟団体】

- 公益財団法人北海道盲導犬協会 〒005-0030 北海道札幌市南区南 30 条西 8-1-1
- 公益財団法人東日本盲導犬協会 〒321-0342 栃木県宇都宮市福岡町 1285
- 公益財団法人日本盲導犬協会 〒223-0056 神奈川県横浜市港北区新吉田町 6001-9
- 社会福祉法人中部盲導犬協会 〒455-0066 愛知県名古屋市港区寛政町 3-41-1
- 公益財団法人関西盲導犬協会 〒621-0027 京都府亀岡市曾我部町犬飼未ヶ谷 18-2
- 社会福祉法人日本ライトハウス盲導犬訓練所 〒585-0055 大阪府南河内郡千早赤阪村東阪 1202
- 社会福祉法人兵庫盲導犬協会 〒651-2212 兵庫県神戸市西区押部谷町押部 24
- 公益財団法人九州盲導犬協会 〒819-1122 福岡県糸島市東 702-1

#### 【その他の協力団体】

- 公益財団法人日本補助犬協会 〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1954-1
- 一般財団法人全国盲導犬協会 〒312-0052 茨城県ひたちなか市東石川 3 4 4 4-7

# 事故・ヒヤリハット調査

盲導犬ユーザーの駅ホーム転落事故を契機に  
2017年2月9日

認定NPO法人 全国盲導犬施設連合会運営委員  
吉川 明（公益財団法人 日本盲導犬協会常勤理事）

# 背景

- ・ 2016年8月15日 東京メトロ青山一丁目駅で盲導犬ユーザーが駅ホームから転落し死亡するという事故が発生した
- ・ 2014年9月新潟十日町交通事故（盲導犬死亡、ユーザー重体）、2015年10月徳島バックしたトラックにはねられユーザー・盲導犬死亡という重大事故が続いていた
- ・ 1件の重大な事故の背景には、29件の軽い事故が起きており、さらに事故には至らなかったものの一步間違えば大惨事になっていた「ヒヤリハット」する事例が300件潜んでいる（＝ハインリッヒの法則）と言われている
- ・ 更なる盲導犬の訓練・歩行指導の充実を図る上で、実際に盲導犬と歩いているユーザーの方の実体験を正確に把握する必要がある
- ・ ユーザーの体験（特に失敗の体験）を活かしていくことが、より良い盲導犬を育成し、より良い歩行指導につながる

# 方 法

## 第1次調査：郵送法（一部、電話での聞き取り）調査

調査対象： 730人の盲導犬ユーザー（全ユーザー966人中76%）

北海道盲導犬協会（97人）、東日本盲導犬協会（32人）、日本盲導犬協会（242人）、  
中部盲導犬協会（57人）、関西盲導犬協会（84人）、日本ライトハウス（143人）、  
兵庫盲導犬協会（16人）、九州盲導犬協会（45人）日本補助犬協会（11人）、  
全国盲導犬協会（3人）

調査期間： 2016年10月1日～10月21日、12月5日～20日

回 収： 554人（回収率75.9%、全ユーザーの57%）

## 第2次調査：電話による聞き取り調査

調査対象： 郵送法で回答者で調査協力表明者から任意に選んだ95ケース

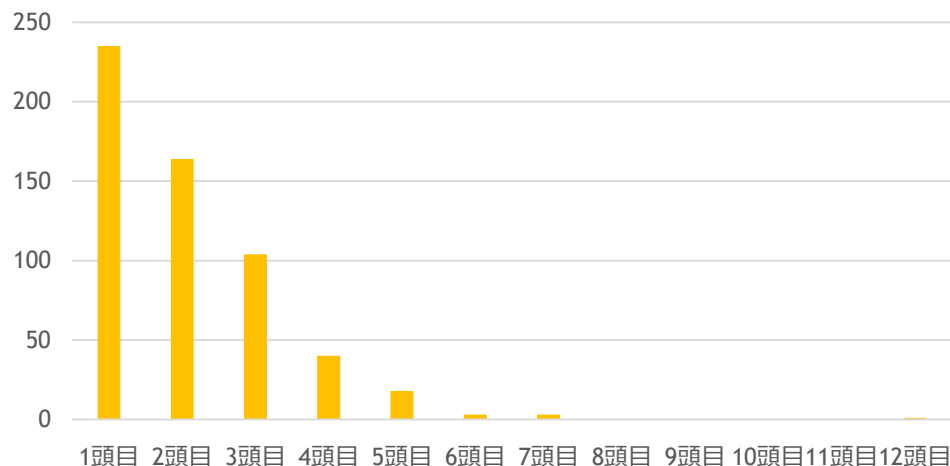
事故・けが 54ケース、ヒヤリハットケース40ケース

調査期間： 2016年11月1日～12月30日

# 結 果

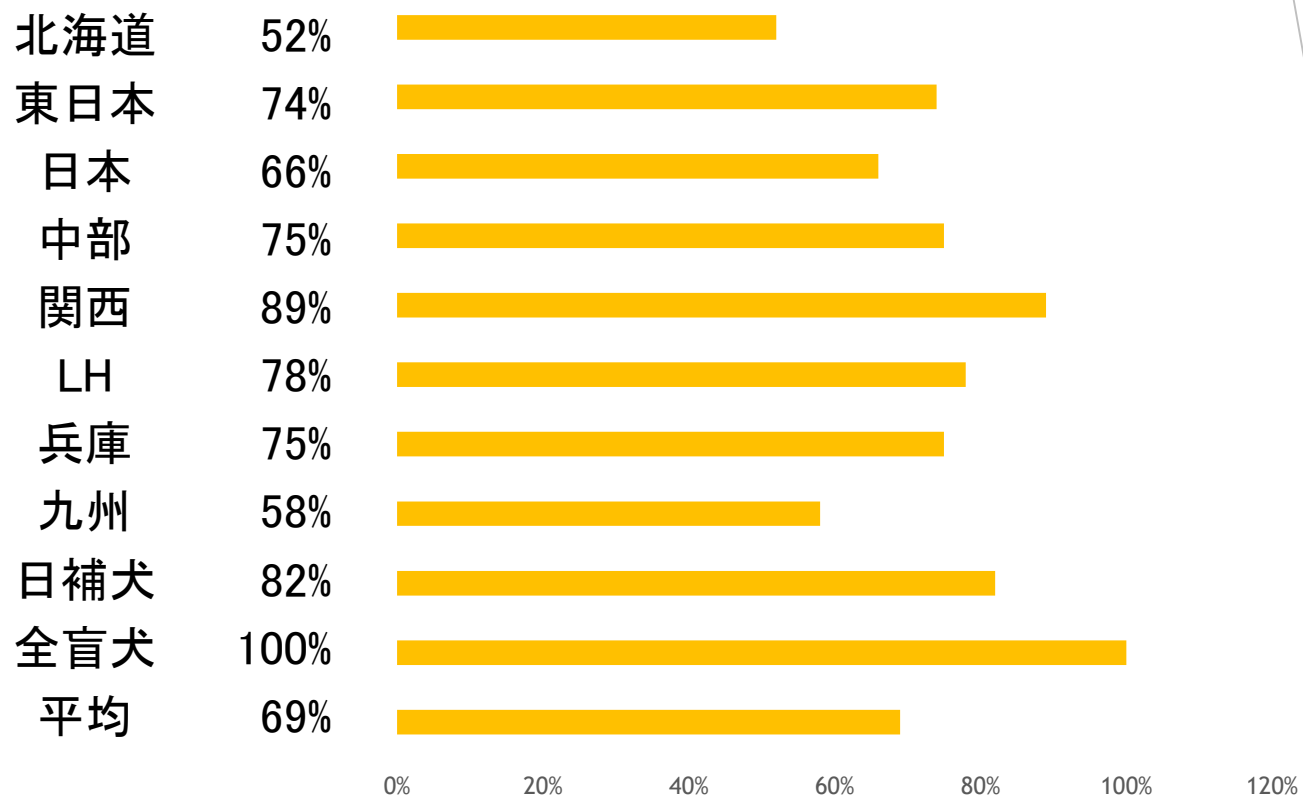
## 盲導犬ユーザーの基本的プロフィール

有効回答人数554人	男	256人	46.2%
	女	298人	53.8%
平均年齢		59.2歳	
何頭目の盲導犬ですか？ (平均利用頭数)		2.0頭	
盲導犬歩行歴は何年ですか？ (平均歩行歴)		8.8年	
有視覚情報を利用して 歩行していますか	利用している	151人	27.3%
	全盲	399人	72.0%



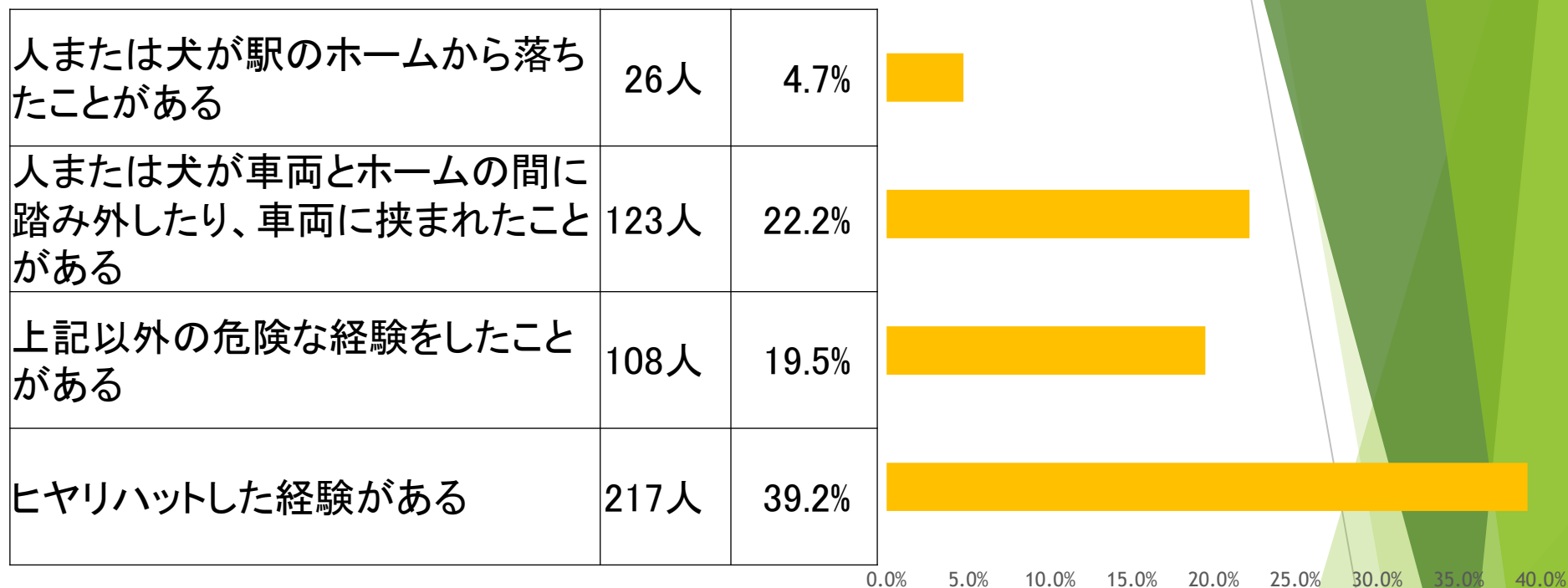
1頭目	2頭目	3頭目	4頭目	5頭目	6頭目	7頭目	8頭目	9頭目	10頭目	11頭目	12頭目
235	164	104	40	18	3	3	0	0	0	0	1

## 駅を単独利用率



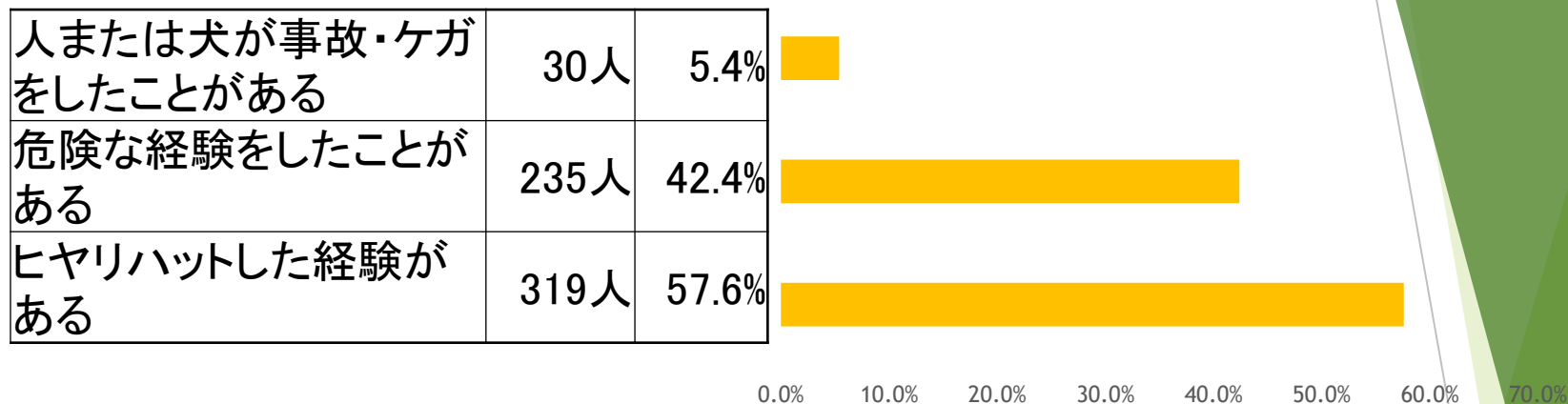
駅を単独で利用したことがある人は3人に2人であった

## 駅のホーム・構内での経験



- ・駅のホームから転落した経験がある人は、26人で4.7%であった
- ・視覚障害者で駅ホームから転落した経験がある人は31.3%（日本盲人会連合・毎日新聞調査2016年12月）。盲導犬歩行では7分の1である
- ・車両とホームの間に挟まれる事故・けがは22.2%が経験しており、車両に乗り込む、降りることは危険をとまなう。

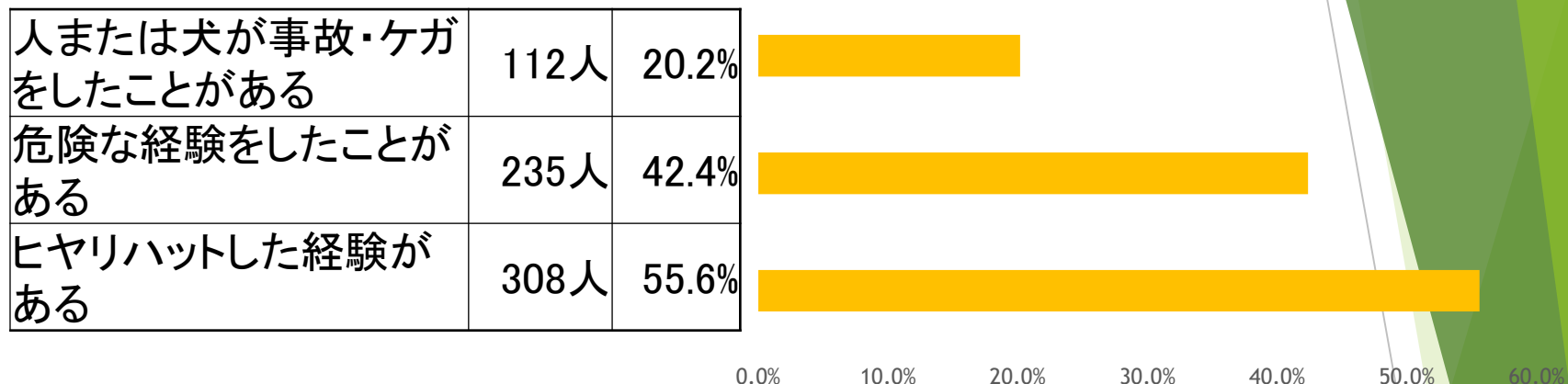
## 交差点や踏切での経験



- ・ 交差点や踏切での事故は、ホーム転落同様に重大事故になるが、経験者は30人（5.4%）と少なく、ホーム転落とほぼ同じと言える
- ・ 事故までは言っていないが、危険な経験・ヒヤリハット経験はホーム上の1.5倍に上っている

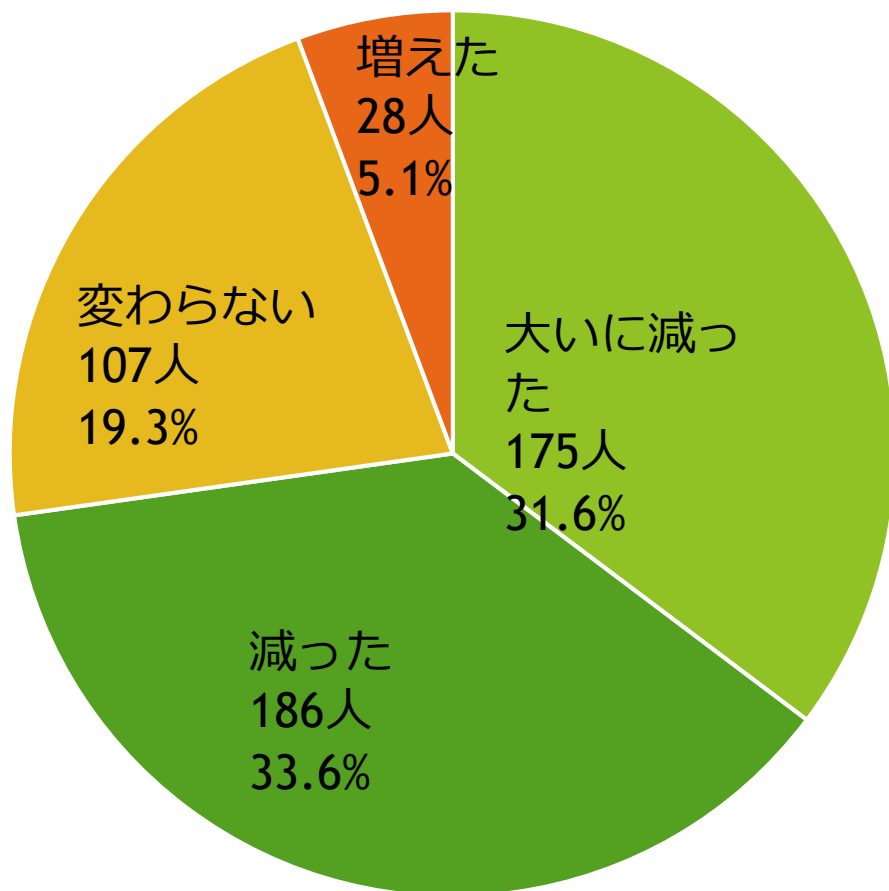


## その他場所での経験



- ・ その他場所では、事故・ケガの経験は20.2%と5人に1人がケガ等の経験をしている。
- ・ 危険な経験・ヒヤリハット経験も2人に1人は経験している。

# 盲導犬歩行になってから、危険な経験・ヒヤリハット経験の減少



- ・ 大いに減った、減った、を合わせると、65%。3人に2人は盲導犬の有効性を感じている

- ・ 増えたの28人に聞いてみると、一人で歩くことが増えたので、結果的には増えたと言口同音にこたえており、社会参加を始めたことになり、盲導犬事業のプラス面ととらえられる

- ・ むしろ、変わらないと答えた方が5人に1人おり、ここに課題がある

## ヒヤリハットの法則は本当か？

1件の重大な事故の背景には、29件の軽い事故が起きており、さらに事故には至らなかったものの一步間違えば大惨事になっていた「ヒヤリハット」する事例が300件潜んでいる（=ハインリッヒの法則）

	重大事故	軽い事故	ヒヤリハット
経験した人	4人	204人/554人 36.8% (約4割)	480人/554人 86.6% (約9割)
経験した総経験回数	4回	264回 1.29回	1,426回 2.97回

- ・ハインリッヒの法則なら重大事故4件→軽い事故116件→ヒヤリハット1,200回
- ・ヒヤリハットの回数に比べ、2.3倍軽い事故が起きている
- ・2015年度の視覚障害者の交通事故は44件と事故率は健常者に比べ高い率ではないが、死亡事故3件と重傷率が高い

## 2次調査：事故・ケガ／ヒヤリハットの聞き取り

		事故・ケガ		ヒヤリハット		
障害等級	1級	50	92.6%	40	100.0%	1級50人中19人(22.1%)が視覚を利用していた。2級の3人は全員視覚を利用していた
	2級	4	7.4%	0	0.0%	
視覚の利用	利用あり	15	27.8%	9	22.5%	の3人は全員視覚を利用していた
	利用なし	39	72.2%	28	70.0%	
発生場所の利用頻度	ほぼ毎日	27	50.0%	12	30.0%	事故・けがは、普段利用している場所で起きている。ヒヤリハットは事故・ケガに比べれば慣れていないところで起きている。
	ときどき	24	44.4%	18	45.0%	
	始めて	2	3.7%	9	22.5%	
時間帯	朝	15	27.8%	8	20.0%	発生時間帯は朝・昼・夜に関係なく起きているが、ヒヤリハットは昼に半数近く発生。夜の外出が少ないと思われる
	昼	17	31.5%	19	47.5%	
	夕方	15	27.8%	8	20.0%	
	夜	6	11.1%	2	5.0%	
声掛けの有無	声掛けあり	11	20.4%	17	42.5%	ヒヤリハットは42.5%で声掛けがあるのに対し、事故・けがは20.4%にとどまっており、声掛けが事故発生を防止していると言える
	声掛けなし	40	74.1%	18	45.0%	
普段と異なる状況の有無	あり	16	29.6%	14	35.0%	普段と異なる状況を感じているのは3分の1にとどまっている。ヒヤリハットの方が異なる状況を感じている
	なし	38	70.4%	22	55.0%	
ユーザー自身の体調等の状態	急いでいた	4	7.4%	2	5.0%	7割が普段どおりと答えている。体調の状況、見え方・聞こえ方の違いを感じていた方はヒヤリハットで済んでいるようだ。普段との違いがなかったのか、気づかなかったのかは不明だが、気づく技術が大切かもしれない。急いでいた、あわてたが2割近くいた。
	考え事をしていた	1	1.9%	1	2.5%	
	体調が不良	3	5.6%	0	0.0%	
	見え方が違っていた	0	0.0%	1	2.5%	
	聞こえ方が違っていた	1	1.9%	3	7.5%	
	対応にあわてた	3	5.6%	7	17.5%	
	普段どおりだった	36	66.7%	26	65.0%	

## 2次調査：事故・ケガの種類

駅ホーム転落	12	22.2%	島式8、櫛式1、不明3。5ケースは、点字ブロックに人がいたり、携帯で話している人をさけたり、混雑で人を右側にさけているうちに反対側の線路に転落。 線路に直角に立っていると思いこみ、実際は平行に立っていて一步を踏み出してしまった。駅員やガイドヘルパーがいたが、盲導犬がいれば大丈夫と思いこんでいたらしく、方向を間違え歩いているのに止めてもらえなかった。転落直前、声をかけてくれたが「盲導犬はお利口ですね」だった。急いでいて、盲導犬が前に回り込んできたが、止まることなく転落した。酔っていて勝手な判断をして盲導犬を引っ張って転落、いつもと違う場所だった。
踏み外し	11	20.4%	いつもと違う場所、体調不良、ホーム端の説明なく駅員が車両乗り込み、近くの人が「Good」といったので犬が乗り込んだ
車両ドアに挟まれる	4	7.4%	犬だけ行き、ドアがしまった
交差点での自動車事故	6	11.1%	左折車両との衝突2ケース、左折バス巻き込み2、交差点内横断中2
交差点外の自動車事故	8	14.8%	バック車両との衝突が5ケース、コンビニなどの駐車場からの動き出し時、狭い道でひっかけられた3件
自転車事故	4	7.4%	出会いがしら事故が2ケース。2ケースはすれ違い、追い越し時、狭い道。
踏切での事故	0	0.0%	
その他場所での事故	9	16.7%	側溝に落ちた2件

## 2次調査：危険・ヒヤリハットの種類

駅ホーム転落しそう	14	35.0%	島式反対側ホーム4ケース、乗ろうと思った車両がなかった4ケース、踏み外し4ケース、14ケース中、3人が声掛け、2人が引き留められた
中央分離帯で待機	2	5.0%	
交差点で方向ずれ車道に	6	15.0%	
交差点で自動車と衝突しそう	9	22.5%	車が急停止5件。どうも赤で渡ったようだ3件、車が停止した、隣の人が渡ったので動いた。トラックの接近に盲導犬が動かなくなった
交差点外の自動車と衝突しそう	6	15.0%	車道を歩いていた3件、急にバックしてきた1件、ハイブリッド車2件、
自転車事故	1	2.5%	
踏切に取り残された	1	2.5%	
その他場所での事故	1	2.5%	

# 考 察

1. 駅ホームからの転落は、2016年8月15日東京メトロ青山一丁目駅、12月4日静岡県JR興津駅、2017年1月14日埼玉県JR蕨駅でも発生。29件である。駅ホーム転落ケースに特化して再度詳細な聞き取りの必要がある。重大事故は、盲導犬事業者と学識経験者で事故調査をすべきである
2. 盲導犬歩行中にヒヤリハット経験した人は9割で、軽い事故経験者は4割近く。
3. 重大事故は、駅のホームからの転落、交差点での車との衝突、バック車両。
4. 7割が普段どおり、いつもと同じと感じているときに、事故やヒヤリハットが起きている。慣れ、油断が一番の大敵。いつもと違う状況、いつもと違う自分を客観視できることが大切。
5. 盲導犬の作業に問題があると断定できるケースは極めて少ない。盲導犬は作業したが、犬を押しした・引っ張った、犬より前に出た。定位を勘違いした、電車がいると思いこんでいたなど錯誤。意外にも援助者の伝え方が悪いために起きているケースが散見された
6. 盲導犬歩行は、安全性や社会参加を促進することに有効であることが確認されたが、更に安全性と有効性を向上させる取り組みが必要である